

コ-ラニニ給イテ

人間の裸ニツイテ

① コーラの資料

(1)

② (1424巻)

o S.39.50 : 人間のせいでもない人間は
とて何の役に立たない。

o S.39.65.66

{ Pラー-に他神を配するのをS.39.51で
は空しい。失敗するに決まっている。と
3. 感謝にPラー-にたかえだ。

創造された時の人間、Pラー-にたかえする者として
つくられた人間がその状態を、その状態
を肯定して(感謝して)生きだ!!

他神を配するのは、この世の存続を信じて
; 名誉とか財産 etc. 或いは 権威の ideology
をたかえようとするものである。= S.39.51で必要
がある」と云われてゐる。

o S.40.3

{ Pラー-に帰る。

Pラー-が人間の本源である。 الله
とは将来 Pラー-に帰ることを意味するのであるか。

将来帰るべきは現に帰るべきである

1. プラ-はほぼ人間に属するが、それは31に1まで

921は父(か)の22血管でも近しいはずである

2. プラは「気候」の時(時)は「帰る」ついで「帰る」である。
(帰る) (帰る身を見出す)

つまり「帰る」は「帰る」である。帰る身を見出す。

3. プラ-は「帰る」である。帰る身を見出す。
(事件のあり方は) プラ-に「帰る」に「帰る」

ついで「帰る」(否、それは「帰る」の「帰る」の「帰る」)

に「帰る」は「帰る」である。帰る身を見出す。

と「帰る」は「帰る」である。

o S. 40. 20

{ プラ-以外のものは「帰る」に「帰る」。

o S. 40. 60

{ プラ-に「帰る」は「帰る」である。
{ 高い(み)のものは「帰る」に「帰る」である。
{ 微に入ります。

「帰る」は「帰る」である。人間は「帰る」の「帰る」である。

「帰る」は「帰る」である。人間は「帰る」の「帰る」である。

あるならば、人間はほろびる。つまり何か人間
が持つそれが人間の高の点である。それが
行方不明は尊厳に存在する。とみる。

o S. 40. 66

{ 人間はアッラ-以外のものにたどり着く = 命
いふのである。アッラ-にたどり着く = 命
いふのである。

種族に、人間はアッラ-にたどり着く以外に
いふのであるとみる。

o S. 40. 74

{ アッラ-以外のものは神の存在に
は存在しない。それがその実体は
"AT"。

o S. 40. 76

{ 自己の高さは神の末路は哀れ!

08.4.15

{ 人間は自分達よりも強..そのはア..と答へ
 2..子が..それなりか..その(人間)と比べてP..
 ラーはより強..と..=とにア子2..は..か..

大脳は直よりも心臓..か..と..と..=とにア
 子..

◀ ◎ (1925年) ▶

08.4.31

{ 人間はアラーに..と..何9カも..アラー
 其他に10/10..も..

アラーを無視した人間は..と..そのは0である。10/10..
 も..

死ぬ言葉で..^(当時)..死ぬしかなかった
 のである。..
 つまりアラーを基盤と..かき..人間は死ぬ

(か..と..たれている。人間はアラー..

..と..答へた..砂漠は一人..

..

といふ。助けたりと...言葉は所漠...は切実な意味を
 持つ。助けたりは...と...に生かされる...にある。生かす
 ありと...^(何らかの)...は...他者と助けたり関係の境にあると
 ...は...と...あり。

• S. 42. 46

{ プラトンはカセギ、吾には道がある。

結局に、プラトンは人間は結びつくと言われている。

• S. 43. 36

{ プラトンは拒否する者は即徳魔か...の反
 と...あり。

◀ (伊26巻) ▶

S. 46. 20

{ ...人間はゆえなく自らを高くする...
 ...はゆえなく自らを高くする...と...
 ...は...。人間には自らを高くする何の理由
 もない...^(言はれに...)...人間性、高貴、やさし、才能、美
 貌 etc. ...の...と...、それ故に...に全...の
 ...の基礎を...と...。...の...
 ...は...。...は...。